

平成29年6月15日
国際コンテナ戦略港湾政策推進委員会
(第8回) 資料2-1



阪神港における港湾運営会社の取組状況について


2017年6月15日

阪神国際港湾株式会社

【経営理念】

阪神港の物流機能の強化を通じて、国際競争力を高めることで、西日本経済の発展と市民生活の向上に貢献

【基本戦略】



集貨・創貨

競争力強化(ターミナルの高規格化・効率化)

戦略的かつ機動的な経営

集貨・創貨の取組例～ポートセールス～

新たな航路や荷主を誘致するため、説明会・セミナーの開催や物流展の出展など、積極的なセールスを展開。

○H29集貨事業説明会

- ・ H29.4.12 神戸 (116社 203名の参加)
- ・ H29.4.14 大阪 (120社 191名の参加)
- ・ H29.4.18-19 東京 (134社 240名の参加)
- ・ H29.5.25 鹿児島 (26社 45名の参加)

○セミナーの開催

- ・ H28.11.18 神戸港セミナー
(インドネシア・ジャカルタ)
- ・ H29.2.8 大阪港セミナー
(ベトナム・ホーチミン)

○物流展への出展

- H28.9.13-16 「国際物流総合展2016」 (東京) 出展
- ・ ブース訪問者数 約2,000名
(うち、約40社を後日個別訪問)

○船社、荷主等の個別訪問

- ・ 平成28年度 約1,000社訪問

主な新規航路等

○平成28年6月

アジア～北米西岸航路『CAX』サービス開設 (韓進海運)

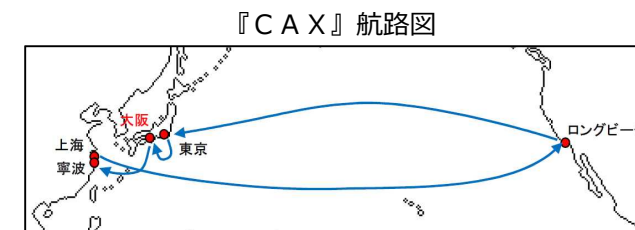
※韓進海運は平成28年8月の再生手続き申請を受け運航停止を発表。その後平成29年2月に破産宣告。

○平成29年4月

神戸 → シンガポール ノンストップ航路『JPX』サービス開設 (CMA CGM)

○コンテナ取扱貨物量の増加

【阪神港】平成27年 493万TEU ➡ 平成28年 502万TEU (速報)

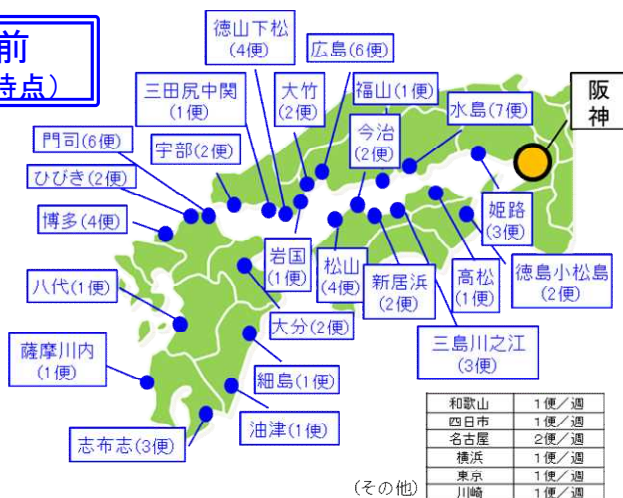


集貨・創貨の取組例～国際フィーダー網等の強化～

貨物の誘致にあわせ、国際フィーダー網の強化や阪神国際港湾(株)が運営するインランドデポを活用したコンテナラウンドユース等を推進。

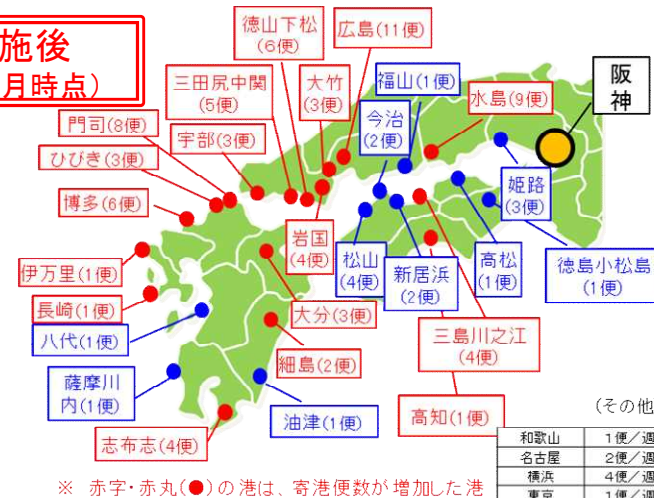
国際フィーダー網の強化

事業実施前
(平成26年4月時点)



寄港便数: 68便/週

事業実施後
(平成29年6月時点)



31便/週増
「約5割増」

寄港便数: 99便/週

コンテナラウンドユースの推進

阪神港の利用を促進するため、自社のインランドコンテナデポも活用し、コンテナラウンドユースを推進。

●インランドコンテナデポ運営状況

H26.4月	阪神インランドコンテナデポ滋賀開設 [滋賀県野洲市] ・最大取扱本数 83本/月
H27.10月	当社のデポ利用企業が独自の内陸コンテナターミナルを開設 [京都市伏見区]
H28.10月	阪神インランドコンテナデポ滋賀みなくち開設 [滋賀県甲賀市] ※野洲市から移転



集貨・創貨の取組例～新たな貨物の創出～

アジア広域集貨プロジェクトチーム(本年3月設立)として、国際トランシップ機能の再生等に積極的に取り組む。

また、食の輸出促進を図るため、冷凍混載輸送サービス拡大の支援等に取り組む。

アジア広域集貨プロジェクトチーム

瀬戸内・九州方面を中心とした西日本からの集貨に加え、経済成長が著しい「東南アジア」を重点的なターゲットとして、トランシップを含む集貨戦略を検討

(設立会出席者)

日本港運協会会長 久保昌三
神戸海運貨物取扱業組合理事長 須藤明彦
国土交通省港湾局長 菊地身智雄
神戸市みなと総局長 吉井真

ほか、船社、荷主、フォワーダー、海貨など
合計23名がご出席

※ 弊社は代表取締役社長 川端芳文

(事務局) 神戸市

食の輸出促進の取り組み

食輸出の機運の高まり等を背景として、大阪港からの食の輸出促進に関する取り組みを展開

(大阪港を仕出港とした冷凍混載輸送サービス提供事業のスキーム)



阪神国際港湾(株)と関西・食・輸出推進事業協同組合が実施

(認定事業者)

(株)上組、日本通運(株)、内外トランスライン(株)、(株)日新の4社

(食の輸出促進に関する取り組み実績と予定)

認定事業のパフレットを作成し、セミナーや商談会で周知活動等を実施

- ・「大阪府営港湾・大阪港共同セミナー」
- ・「関西食の輸出促進施策合同説明会」
- ・「2017関西の食を世界に広めるマルシェ」
- ・「FOODEX JAPAN 2017」

2017年9月には大阪港で食の輸出をテーマとしたセミナー&商談会を開催予定

競争力強化の取組例～連続バースの一体化～

大水深の連続バースや大型ガントリークレーン等を備え、一体的なオペレーションが可能な高規格コンテナターミナルを提供。

神戸港

ポートアイランド

【平成28年7月】
国際フィーダー用バースを含む1,150m連続バースの外内貿一体としたオペレーションを開始
(合計 8 基のガントリークレーンを供用)

【今後】
22列対応の免震ガントリークレーン 2 基を整備中



外内貿バースの一体利用により、フィーダー貨物も外貿コンテナバース内で一連の荷役が可能

大阪港

夢洲



【平成29年2月】
西日本最長となる1,350m連続バースの一体的なオペレーションを開始

【今後】
免震ガントリークレーン 2 基の追加を計画



競争力強化の取組例～生産性の向上～

効率的なオペレーションが可能となるようコンテナターミナルやフェリーターミナルの生産性を向上。

大阪港C9ターミナルのレイアウト・荷役方式の改良による生産性向上

荷役機械やシャーシ等の動きをシミュレーションし、最も生産性の高いターミナルレイアウト等を検討・提案・改良。

【主な改良点】

- ①ヤード内の荷役方式をストラドルキャリアからトランスファークレーンに改良
 - ②ターミナル内でのシャーシ滞留を解消するためゲートを増設
- ➡コンテナ貨物の蔵置能力が増大
年間取扱能力が約1.5倍に増加
- ➡本船荷役スピードが約10%向上

ストラドルキャリアによる荷役



トランスファークレーンによる荷役



フェリーターミナルの再編・整備

大阪港において、利用者の利便性の向上を図るため、ターミナルの再編や整備を推進。

【大阪南港コスモフェリーターミナル】

志布志航路をかもめフェリーターミナルから別府航路のあるコスモフェリーターミナルに集約。

(フェリーさんふらわあ)

平成29年1月末から営業開始

【大阪南港フェリーターミナル】

第2 棧橋 (F3) において、岸壁を延伸するよう大阪港港湾計画の変更を提案し、港湾計画に反映。

平成30年度に棧橋大型化完了・大型船入港予定。



世界から選択される港とすべく、邦船3社の定期コンテナ船事業の統合などの環境の変化に迅速かつ柔軟に対応。

阪神港のターミナル借受者に係る動き

- 邦船3社の定期コンテナ船事業統合（国内ターミナル事業は対象外。H29.7月合併会社設立予定。H30.4月サービス開始予定。）
- CMA CGMがAPLを買収（H28.7月）
- 韓進海運の破産宣告（H29.2月）

